

Ⅶ 鳥取県でのカラマツ育苗・植栽技術の確立

(実施期間：令和元年度～4年度 予算区分：県単 担当：富森加耶子)

1 目的

カラマツは初期成長が早く、材の強度に優れることから鳥取県での新たな造林樹種として注目されている。一方、育苗中に根腐れによる枯損苗が多く発生することや植栽後に活着・成長不良する事例が散見される。本来、カラマツは北海道や長野県等における主要な造林樹種であるため、本県に適した育苗技術の確立及び植栽適地の評価、シカ食害の耐性について実証試験を行う。

2 実施概要

(1) 方法

①育苗技術：生産者間での育苗方法の違いと得苗率の関係を明らかにするため、散水方法に注目し、得苗率の高い生産者 A と低い生産者 B の散水量を転倒ます雨量計でモニタリングした。

②獣害耐性：カラマツと鳥取県の主要造林樹種であるスギを令和元年 12 月初旬に植栽した。カラマツは、シカ食害対策として頂芽に装着する食害防止クリップ及び忌避剤の施用、無処理の 3 処理設けた。これら計 4 処理の植栽後のシカによる食害状況を調査した。

(2) 結果

①得苗率の高い生産者 A は降雨後に数日間散水を停止する等の細かい調整を行っており、1 回の平均散水量は生産者 B の 11.1mm に対し 7.6mm と少なかった (図 1)。今後、適切な散水条件と土士の組み合わせについて実証試験を行う予定。

②スギは植栽 40 日後に食害率 100% となり全て被害を受けたが、カラマツは 30% に留まった (図 2)。今回は秋植えを行ったため、カラマツは植栽後すぐに落葉し、シカによる食害から回避できたと考えられる。シカ食害対策を行った場合、食害防止クリップで食害率 8.6%、忌避剤散布で 4.5% に抑えられ、植栽早期の食害対策として効果がみられた。今後、開葉後の食害状況について引き続き調査する。

3 結果の図表と研究の様子

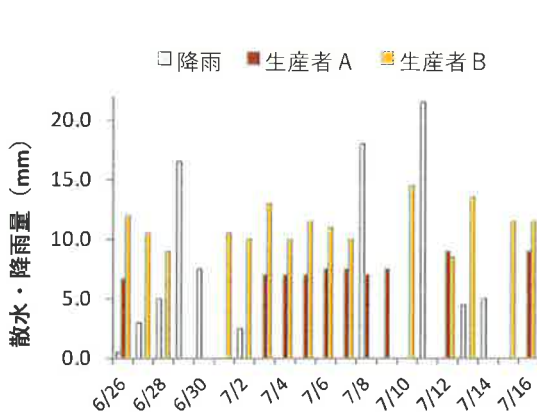


図 1 散水モニタリング結果

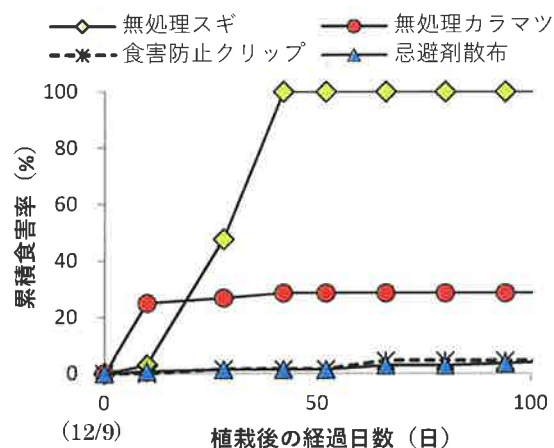


図 2 食害率の推移